

令和2年度高崎市総合教育会議 会議録

日 時 令和2年12月17日(木) 午後2時00分から午後2時46分まで

会 場 庁議室

出席者

(市長)

富岡賢治

(教育長)

飯野眞幸

(教育委員)

教育長職務代理者	清水久美	委	員	塚田展子
委	重田誠	委	員	神宮嘉一

(事務局)

教育部長	小見幸雄	学校教育担当部長	佐藤明彦
教育総務課長	真藤要一郎	教職員課長	大澤克教
学校教育課長	橋爪幸雄	健康教育課長	山崎幹夫
教育センター所長	永井智幸		
教育総務課長補佐	宮澤信宏		

教 育 長	<p>これより令和2年度高崎市総合教育会議を始めさせていただきます。 最初に、富岡市長よりご挨拶をいただきたいと思います。よろしくお願ひいたします。</p>
市 長	<p>お忙しいところお集まりいただきまして、ありがとうございます。本日は、「With&Afterコロナ時代における高崎市の学校教育について」がテーマでございます。コロナの話ですが、高崎市は群馬県で人口が一番多く、交流の多い市なので、もっと絶対数が増えるのではないかと見ているところですが、もちろん油断してはいけません、ものすごく増えている事はございません。よく使われる資料で、直近1週間毎にコロナ感染者の陽性患者と言いますか、いわゆる人口10万人当たりどのくらいだという数字が、高崎市は非常に少ないです。10万人の人口に対して、県全体の数字は2.1名ですが、高崎市は0.5名です。伊勢崎市が4.8名、太田市が2.8名、桐生市が4.0名、館林市が3.6名、前橋市が1.3名という事で、高崎市は非常に陽性患者が少ない状況です。これは何故かと考えますと、人によって色々な意見がありますが、私は2つあると思っています。高崎総合医療センターの院長と話したのですが、1つはマスクをして、密を避けて、手指の消毒を徹底してやっている事と、感染者が出た時に、感染が拡大しないために、接触した者に対して徹底的なPCR検査をしている事です。もう1つは、高崎市は割ときれいです。駅を出たら女性が1人で歩けないような地域を抱えている市が県内でも多いのですが、高崎市は、風俗営業的な地域がかたまっている市ではないので、これが実は大きいのではないかと私は思っています。高崎市がきれいなのは、市民の協力と長い歴史の上で出来ている事でありまして、感染が広がるような土壌が無いのではないかと、我田引水的なところもありますが、そういう事も背景にあるのではないかと思っています。引き続き、感染を広げないための対策を十分とってまいります、そういう成り立ちについても、十分評価していかなければいけないと思っています。</p> <p>まちづくりという事からしますと、物足りない所があります。人情味が無い街と評価されることがありまして、JRの関係者から聞いたのですが、新幹線のホームから赤ちょうちんが見えない街は、2つしかないと言われていました。1つは仙台、もう1つは高崎。つまり、赤ちょうちんが見えないのが悪いと言っているのではなく、人情味が無いのが難点だなと思っていますが、コロナという事に関係しますと、それがプラスに働いているのかなと思っています。この辺は、追々確かめて行きたいと思っていますけれど、そういう実情でございます。絶対数が多くないという事でございますが、油断してはいけないという事で、各学校や地域の取組、医療機関の取組も引き続きしっかりやってもらいたいと思っています。</p> <p>そこで、これは私の個人的な意見で議論があるかと思いますが、コロナ後のニューライフスタイルという事が随分と言われていますが、私は賛成しておりません。人の目を見て話す、食事の時に会話をするというのは、長い間の日本人の足らない難点で、むしろしっかりやって、親子の会話をきっちり食事の時はした方がいい、そうでなければ、親子の会話なんて成立しないと思います。こういう事を改善していこうと長い間努力をしてきたわけです。それがコロナ後は、親子の会話もしないで、家族で黙って食事をするとか、学校の給食の時に黙って食事をしなさいなんて、私は日本人のこれからの教育に良くない事だと思っています。ニューライフスタイルというのが、すべて正しいとは私は思っておりませんので、これはよく教育の専門家の間でも議論していくべきだと思っています。教育委員会と意見が違いますが、総合教育会議の座長としての私の意見でございます、これが全体の意見になるかどうか分かりませんが、そういう風に思っております。</p>

	<p>また、GIGAスクール構想という事で、全小中学生と高校生を含めてタブレット型のパソコンを1台ずつ整備しようという事ですが、私はパソコンでオンライン学習が出来るのは、大学生と予備校生だと思っています。小学生がオンラインで学習できるはずはないと思いますし、極端な意見じゃないかと私は思っています。しかし、パソコンやオンライン学習は避けて通れないという事は事実でございますが、小学校低学年の子どもがタブレットの前で1時間座っているはずはないです。「勉強しなさい。」と言って勉強机に座っているだけでも大変なのに、タブレットやパソコンの前で1時間もできるはずはないので、やはりその使い方に節度を持って考えなくてはと思っています。1人1台について、速やかにやるようにと県からのご指導もありましたので、概算的な予算を急いでやりますが、使い方をよく検討してからの方がいいというのが私の意見でございます。教育長も同じ意見で、専門家の先生方を集めて、どのように使うか考えてからにしようという事で、検討していただきました。パソコンを使いながらの授業で、学習の良い所を見つけ、使い方を工夫すれば学習意欲が増すという事は在りうるのですが、全ての先生がそれを出来るわけではありませんし、研修して直ぐ身につくわけでもありません。調べ学習をする時はとても活用できるのですが、おそらく月に2回とか週に1回ぐらいしかやらないと思います。そうすると使われる場面も限られるので、効率的な使い方をよく検討しなければいけないと思っています。オンライン学習などパソコンを上手に駆使できない先生でも使えるような方法を提示して、うまく活かしてくださいと、やさしい形でスタートするのが正しいと思っていますし、そのような形で確実に進めて行きたいと思っています。私の個人的な意見で、教育委員会を代表した意見ではありませんので、これから議論していただけたら有難いと思います。</p>
教 育 長	<p>ありがとうございました。</p> <p>この会議は、教育委員と市長が意見交換するという事が目的になっています。限られた時間でありますので、それぞれ一番関心のあるテーマで話をさせていただき、そして市長にコメントをいただくという形で進行したいと思います。</p> <p>ただ今の市長の冒頭の挨拶にもありましたが、高崎市ではコロナウイルスの感染者が他の市町村に比べると少ない、その背景についてのお話がありました。今日の新聞報道では、群馬県は63名との発表がありましたが、そのうち高崎市は1名だけでした。累積をずっと取っているのですが、前橋市と高崎市の差は、100人ぐらいあります。今、市長がおっしゃっていた事と、高崎市は消毒の体制を非常に丁寧にやってくれている事も、やはり背景にはあるのかなという感じがしています。</p> <p>それでは、学校保健の立場として、重田委員からお話しをしていただけたらと思いますので、よろしく願いいたします。</p>
重 田 委 員	<p>医者の立場から申しますと、コロナウイルスに関して、高崎市は本当に学校も含めて、感染者が少ないと思っています。ただ、今後はどうなるか分かりませんので危惧はしております。コロナウイルスが子どもたちにどのように感染するか、マスクが色々と言っていますが、現在、小児科学会と小児科感染症学会では、子どもたちは基本的には感染しづらいし、クラスターも発生しづらいと、学校の閉鎖とか学校を停止する事自体は、感染症の対策としてそれほど効果は無く、ある程度感染対策をしながら、学校をやっていく方が良いだろうと今のところ考えております。高崎市がやっている事は、今の全体的な学会のステートメントに合致していますし、方針としてはすごく良いと思います。やはり、あまりにも感染症そのものに捉われて生活できない事より、コロナに関する虐待ですとか、子どもたちが学校に行けない事によって、看護師の母親が仕事をすることが出来なくて、かえって感染者が増えるという報告もあるので、その辺をしっかりと行って行</p>

	<p>かなければいけないのかなと思います。</p> <p>先程のニューライフのお話ですが、市長の意見に私は賛成で、人類はペストや新型のスペイン風邪など、何度もパンデミックを繰り返し、何年かで乗り切っています。今回はワクチンで早めになるかもしれませんが、そうでなければ数年かけて段々抗体を持って行って、その後生活が普通に帰って行くと思います。ずっと長い間ニューライフをやる必要はないと思います。ただ問題なのは、コロナはいいのですが、その後新しいウイルスが出て来るという可能性が高まっています。環境破壊とかコロナ禍の問題とかに対しては注意が必要だと思いますが、必ずしもずっとやる必要はないのかとも思います。</p> <p>GIGAスクール構想に関しては、やはりメリットとデメリットがものすごくあって、特に小さい子どもはのめり込んでしまいます。それに対しての歯止めは必要ですし、何でもかんでもICT化されればいいのではなく、やはり歯止めをどこでとるかとか、普通の教育との兼ね合いでやって行く事が一番大事で、ICTというのはあくまでも補助であって、一般教育の中に取り入れているだけと私は考えています。</p>
<p>教 育 長</p>	<p>ありがとうございました。市長いかがでしょうか。</p>
<p>市 長</p>	<p>私は、重田委員の意見に大賛成です。これから新しい時代になると、コロナだけではなく、色々な感染症が出て来る可能性はもちろんあります。それはその都度注意していかなければいけません、人間の不易の部分、人と人とのコミュニケーションとか、よく話し合いをしたり、目を見て話をしたりという事は、どんな時でも変わらないと思います。やはり程度問題で、ニューライフに飛びつき過ぎている気がします。パソコンは補充の手段です。パソコンに引っ張られるわけには行かないと私は思っています。やはり教育というのは、パソコンで補充する事だけではなく、賑やかに遊びやスポーツをしたりして、子どもは豊かに育つので、世論は過剰に反応し過ぎるので、注意しなければいけないと思っています。</p>
<p>教 育 長</p>	<p>重田委員には、高崎市が分散登校を取らなかった時も支えていただきました。ありがとうございました。</p> <p>続きまして、清水教育長職務代理者をお願いします。</p>
<p>清水教育長職務代理者</p>	<p>最近、校園長会議に参加させていただいているのですが、高崎市の教育のトップにいる校長先生方の引き締まった表情を見させていただき、参加するたびに素晴らしいなと感じております。</p> <p>先日、小学校と中学校の英語の授業を見学させていただきました。小学校は1年生だったと思います。中学校も1年生で、英語教育が小学校1年生から始めて、初めて中学校に入った1年生でした。その授業を見させていただきましたが、私が中学生だった頃の英語の授業とは全く違っていました。私の頃は単語から入り、文法が第一というような感じでしたが、今は耳から入る事を重視していて、普段使える文章でした。その時に、研修会というのもあったので、担当の先生方と見学をさせていただいたのですが、授業内容がとても良く、話し合っ作り上げたという事が資料を見ながら感じられました。また、子どもたちが英語に対して全く抵抗感がないという事が、第一に感じられた事でした。積極的に手を挙げる子が多く、ALTの先生はほとんど英語で話しているのですが、それも聞き入れている感じも見受けられました。さらに、日本人の先生方との連携もとても良く、色々と考えて授業に取り組まれている事も感じられました。小学校も中学校と大差のないくらいの内容をやっている、ALTの先生の英語でのお話も抵抗なく受け入れていて、これが今の高崎市の英語教育なのだなどと視察して実感しました。各学校にALTが1人配属されていますが、その良さはALTがその学校の</p>

	<p>英語教育に自由に取り組める事かなと思いました。学校に入ると、まず玄関から英語での色々なデコレーションがされており、今でしたらクリスマス、ハロウィンの時はハロウィン仕様に、小学校では階段にも色々な英単語が貼ってあって、日頃何気なく登校する中でも、英語を身に着けて行こうという取組を見せていただきました。</p> <p>また、学力アップについてですが、コロナ禍で学校によっては開催するのは厳しいというお話も聞いていますが、そうした中でも各学校が工夫をして実施してくださり、とても有難い事だと思っております。先生方の現在の働く環境を見ると、パソコンもやらなければいけないし、コロナ禍で授業数が減っている中でもこなして行かなければいけない、また日頃の生活ノートの記入や紙のプリントの作成など、先生方の多忙は益々大変になると感じております。その中でも、校長先生をはじめ、各学校の先生方が子どもたちのために本当に頑張ってくださっているのので、これからも体に気を付けて無事に冬休みを迎えて、その後も感染がなく良い教育が続けて行けたらと切に願っております。</p>
教 育 長	<p>ありがとうございました。</p> <p>A L Tにつきましては、5年くらい前だったかと思いますが、私が市長に増員したいとお話しました。1人増員するのでも容易ではないのですが、市長はすべての学校に付けたらどうかと、このサプライズはすごかったです。それがきっかけで、東京に何度か足を運んでこの環境を整え、現在はコロナでA L Tの交代がうまくいなくて苦しい思いをさせていますが、それでも先日お願いに伺いましたところ、高崎市を優先して配置してくれるという事で、今検疫を待って配置する状況になっています。また、学力アップも皆さんにお世話いただきまして、現在のような状況になっております。今この時間にも、私の地元の城山小学校が行っていますが、子ども全員が参加しています。中には手のかかる子が居るのですが、教員がサポートしてくれて、本当にそういう機運が生まれてきたのは大変良かったなと思えます。A L Tの全校配置も、学力アップも、市長の提案ですので、市長一言お願いできますか。</p>
市 長	<p>清水委員からの英語教育の話は、大変有難い事だと思えますが、今、先生が忙しくなっていると話されましたが、本当にそうなのだろうかと思っています。忙しいのは合っています。でも、何故忙しくなっているのか冷静に考えた方がいいと思います。かつては、研修で忙しく、事務もあってさらに忙しかった。しかし、事務と言っても、補助金関係のような事務官がやるような事務で忙しいのではなくて、子どもの採点をしたり、通常的基础資料を整理したりという、これを事務と言うかどうかなんです。何が忙しいかよく調べたら、これは議論が起きたのですが、先生の会議の持ち方でとても違っていました。例えば、理科の先生だったら、放課後に校内で理科教育研修会、郡市の理科研究会、県の理科研究会など、自主的な会議をし、これがとても時間がかかります。学校の先生の会議は長いと思います。そういうものを整理したら随分違うのではないかと思います。そういう事をしたうえで、本当に忙しいのかどうかなんです。ところが最近、スクールカウンセラーに任せればいいと、学校の先生は生徒指導をやらなくなりました。だから本当に忙しいのかどうかは、整理しなければいけないと思っています。働き方改革が大事だと簡単に言いますが、その前に整理しておかなければいけない事があるのではないかと思います。</p>
教 育 長	<p>ありがとうございました。ただ今スクールカウンセラーの話も出ましたが、確かに学校においては、大変な事案があると、スクールカウンセラーの先生にやってもらえばと、若干、我々の時もありました。そんな意味で、塚田委員からお伺いしたいと思います。</p>

塚 田 委 員	<p>私の方からは、目に見えない心の問題という事について、特にコロナの問題と併せてお話をしたいと思います。あと1、2年すれば大したことはなくなるかもしれませんが、今は未知のウイルスで、どういう風になるのかという不安と恐怖、見通しの無さ、世の中やはり経済的に大変な方がいるので、そこに一緒に住んでいる子どもたちは当然不安も出てきます。世の中全体が落ち着かない状況の中であって、子どもたちは声には上げなくても、当然非常に強いストレスを感じていると思います。幸いなことに、高崎市は他の市町村に比べると、一歩先に動いています。全学校にしっかり良く見てくださいと周知し、通常の場合ですと自殺が多くなる夏休み近くなつた時には、気をつけてくださいといった、そういう反応がとても素早く出ていると思います。確か文部科学省で、8月の末だったと思いますが、緊急提言という事で話が出ました。これは、子どものコロナいじめという事で、色々問題が起こらないようにするために、ポスターやリーフレットを作り、各学校に配られたり、公民館に貼られたりしました。高崎市の高校生も加わって作ったという非常に素晴らしいポスターが出来たようですが、私は見そびれたのかも知れません。高崎市の広報に出ていたかなと思ったのですが、子どもや先生たちは、当然これを見る指導はしていると思いますが、住民や一般の方々も含めて「ストップ差別、偏見」という意識を持たないと、おそらく親の姿、大人の姿を見て、子どもたちは同じ行為をするはずですから、まず大人に啓発していくという事は非常に大事なことです。高崎市の広報はとても良く、いつも必ず目を通してはいるのですが、こういう事も含めて、1回アナウンスをしたらそれで終わりというのではなく、何回も絶えず投げかけていただければと思います。</p> <p>もう1点、先程のいわゆるパソコンなどのお話について私も反対です。心の方を大事にしたいと思っています。5月くらいに、極めて早い段階で教育センターからの動画配信があつて、子どもたちがそれを見て、外に出られないので色々出来たという話を聞きました。子どもも少し違う視点で動きが出来たという事がありましたので、先程の話でありましたように、あまり高度なものでなく、子どもたちが飛びつける、また休校になった場合に、子どもの目線に合った配信を的確に教育センターの方でしてくださっていたようですので、それを是非ともしていただけるといいなと思っています。</p> <p>コロナの厄介なところは、「自分は罹らないだろう。」という点で、差別、偏見が非常に多いので、もし学校の児童生徒が罹った時に、本当に温かく迎え入れてあげないとうまくないなと思います。これは、後々の自殺の問題にも繋がって来るので、慎重にいただければと思います。</p>
市 長	<p>「ストップいじめ」というパンフレットを作りましたが、広報たかさきには載せてないでしょう。今、委員がおっしゃったように、そういう事を考えて行くべきで、そういう連携がちょっと足りなかったですね。それともう1つ、委員がおっしゃっていた教育センターとは、県と市のどちらでしょうか。</p>
教 育 長	<p>今のお話は、市の教育センターです。</p>
市 長	<p>県の教育センターが、休校中用に勉強する内容のソフトを作っていました。私は、保護者の方に聞きましたが、1人も使っていません。なぜかと言えば、休校中にやる映像を作っているわけではなく、都合のいい時だけ作っているの、子どもはそれを見ずっとはできないからです。1、2回は面白いと思います。毎日やれる材料を出していないと休校の時には使えないです。そう全部は作れません。教科書は1ページあったら、大事な所は1行か2行です。「ここが大事ですよ。」「これをちゃんと読んでおいてね。」と言うような使い方もあるのではないかと思います。そうでないと、全教科の教科書、毎日の課程を映像には出来ません。やはり教科書の大事な所を、赤マークで囲んであげてオンラインで流すと</p>

<p>教 育 長</p>	<p>というような事をしないと、先生でも作れないです。そういう風にしたらどうかという意見です。</p> <p>今、市長からお話がありましたが、やがて子どもたちに配付するパソコンを使 っての授業や家庭での学習については、そういう配慮をしましょうという事で、 指導書を作っているところです。</p> <p>では最後に、神宮委員お願いします。</p>
<p>神 宮 委 員</p>	<p>先程からG I G Aスクール構想やパソコンを使った教育の話が出ていました が、タブレットなどを手元に置いて使ったりすると、ビジュアル対応のものは、 非常に効果があるのかなと感じています。例えば、理科ですと物質や細胞などが、 今までの白黒の教科書で見るとは、裏側から見られたり、動物の動きが分かっ たり、体育も実際に学校の先生がやって見せるよりは、動画で見るのは、効果 があるのかなと思います。また、テストで決まったフォーマットのものであれば、 採点をする手間が省けるとか、そうしたメリットはあるのかなと感じています。 ただ、やはりいくつか問題はあると思っておりまして、1つは、教える側の先生 方が、新たにこういった事を取り入れての教育方針になりますと、やはり今まで 以上に先生によっての教え方の差が出て来るのではないかと危惧しています。ま た、子どもたちについては、年齢や成長過程によって一概に同じようにはなく、 やはりそれに応じる必要性はあるのかなと、重田委員も冒頭でおっしゃっていま したが、健康面などを含めて検討する必要はあるのかなと思いました。私の娘が 今高校2年生なのですが、高校に入ってタブレットを持たされて、ちょうど春先 にオンラインでやっていたので、使ってみた様子を聞いてみました。違和感はない ようでしたが、集中が切れるという事を真っ先に言っていました。教室で机に 座っている以上に、小さい画面を相手にずっと集中する事はなかなか難しいよう です。また、先生や友達の顔が画面越しには何となく見えるのですが、そこには 空気感が感じられないと言っていました。今まで教室で感じていたような空気感 が感じられないので、面白いのかつまらないのかという事が、子どもなりに理解 しにくいような言い回しをしていました。そこで考えられるのは、画面上ではお 互いの顔や声は聞こえるのかもしれませんが、やはり一方通行のツールで、むし ろ求めているのちょっと違った方向のデメリットはあるのかなと思いました。 この会議でもそうですが、教室であればなんとなく言っている者同士、聞いている 者同士、周りの人の話し方や空気感分かるのですが、やはりそれが一切ない という事が最大のデメリットかなと思いました。</p> <p>最後になりますが、親の立場で言うと、やはり子どもがタブレットばかり見て いると、何をやっているのか分からないというのは、ちょっと良くないのかなと 思います。なかなか話す機会が少ない中、さらにタブレットで何をやっているの かうかがい知る事の難しさというのを、身を持って感じていたので、先程の市長 のお話の中にもありましたが、一緒に家の中にいて子どもが何をやっているのか とか、何を考えて話しているのかとか、そういった事が断絶されるのではと感じ ました。その辺はこれから解決していかなければいけないのかなと思いました。</p>
<p>教 育 長</p> <p>市 長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>正直な感想で良く分かります。パソコンでやっているところに、隣で親が口出 しは出来ません。食事の時も黙っているようにという事です。一体、親子関係は どうなってしまうのかという基本的な問題だと私は思います。やはり、親が適度 に改善したり、嫌がられたりしながらするものです。勉強をする意欲のない子は、 パソコンを見たら余計になくなります。それを宥めすかしながら勉強をさせるわ けです。そういう実態があるのに、オンラインでどんどん進めるなんて、誰が考</p>

	<p>えたのかと私は思うわけです。新しいライフスタイルと言っている人達やパソコンの教育を進めるように言っている人達の話は、よほど優れている子ならいいかもしれませんが、普通の子どもたちに通用する話じゃないと思います。</p>
<p>教 育 長</p>	<p>私が率直に感じるのは、やはり業界といたしますか、経済的発展の部分を優先して出てきた政策なのかなと、個人的には感じています。</p>
<p>市 長</p>	<p>普通の子にこんな最先端の話をしてもついていけないです。親と子の間に会話が成立しないことが、いかに問題かです。「家庭内でよく話してくださいね。」と言いますが、新しいライフスタイルは、それをするなど言っているようなものです。国レベルでそう言っているので、頭から否定はしにくいのですが、高崎市は地に足がついた教育をやって行くべきだと思います。</p>
<p>教 育 長</p>	<p>市長に最後にまとめていただきましたが、やはり地に足がついた教育をこれからも進めて行きたいと思います。 そろそろお時間になりましたので、以上で、令和2年度高崎市総合教育会議を閉会いたします。ありがとうございました。</p>